

地域公共交通総合連携計画の評価

平成26年3月に策定した「湖西市地域公共交通総合連携計画」では3つの基本目標を掲げ、計画を実効性のあるものにするために、数値目標として2つの指標を設定しました。

達成状況の実績値と目標値を比較してみると、地域公共交通の利用圏域の人口割合は、目標値には届かなかったものの様々な方策を実行する傾向が見られました。また、毎年継続して増加するバス利用者数については、横ばい傾向で推移しています。こうしたことから、路線再編等の実施状況を踏まえて総合的に評価した結果、バスへの認知度は、少しずつですが進んでいます。

(1) 路線再編等事業

○プラス評価

- ・バス利用者の大幅な増加はないが、利用者が年々増加している傾向があります。
- ・鉄道駅前での利用が増加傾向にあり、駅端末交通手段として機能しています。
- ・遠州鉄道浜名線については、通勤・通学を主目的にした路線として維持していくことが大切です。

●マイナス評価

- ・通勤、通学の利用者数に大きく左右される傾向があります。
- ・商業施設前や病院前での利用が減少しています。
- ・極端に利用が少ない時間帯や区間がみられます。
- ・自主運行バス浜名線の運賃体系（対距離制）とコーちゃんバスの運賃体系（ゾーン性運賃）が異なっている。
- ・コーちゃんバスの運賃体系について、一部地域で不公平感が発生しています。
- ・浜名線とコーちゃんバスの乗継の利便性が悪い拠点があります。
- ・交通空白地域が残っています。
- ・土日祝日運行の要望があります。

(2) 利便性向上・利用促進事業

○プラス評価

- ・ポケット時刻表は持ち運びができ好評です。
- ・買い物ツアーは参加者から好評です。
- ・買い物や通院目的で利用できるように乗継の方法まで示したガイドブックを作成しました。
- ・夏休みの小学生割引により8月の利用が増加しました。

●マイナス評価

- ポケット時刻表の配布や買い物ツアーの実施による利用促進への効果が不明です。
- 企画乗車券など全利用者を対象とする運賃割引の要望があります。
- バスの乗り方教室などの乗車体験は、実施対象が限定的です。
- 買い物ツアーは実施回数や実施内容の拡大により効果が期待できます。
- 利用促進策のPRが不足しています。

(3) 進行管理事業

○プラス評価

- 評価改善委員会を継続的に開催しました。

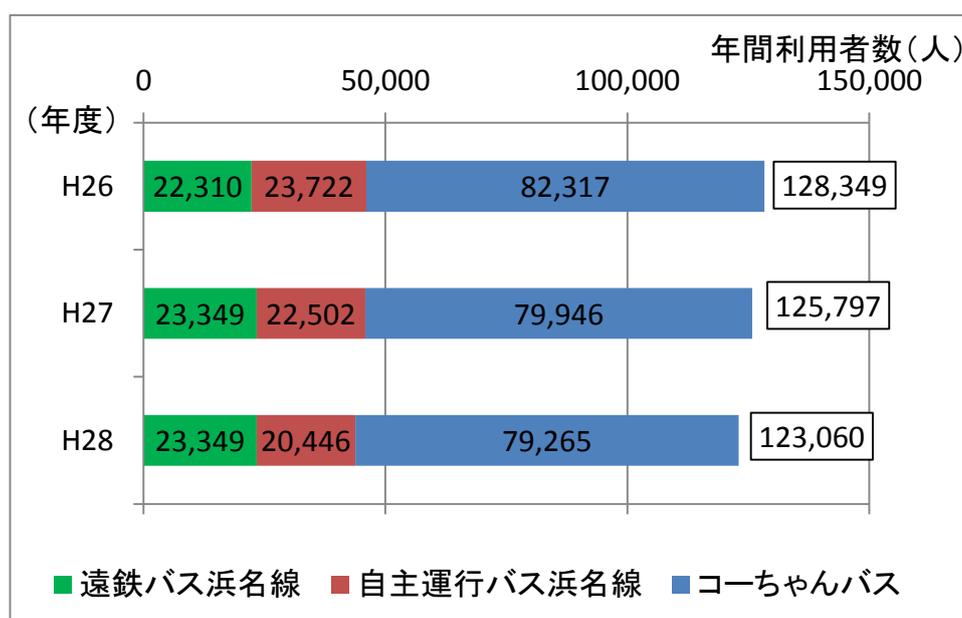
●マイナス評価

- 計画で位置づけた事業の進捗状況が定性的な評価に留まっています。

<連携計画の達成状況>

項目	実績 平成23年度	目標 平成28年度	実績 平成28年度
誰もが乗れる地域公共交通の利用圏域の人口割合	86%	95%以上	⇒ 91%
年間のバス利用者数 毎年継続して前年度を上回る	—	前年を上回る	⇒ H26年度より年々減少

図 年間バス利用者数の推移



※遠鉄バス浜名線の平成28年度の年間利用者数は平成27年度の利用状況を踏襲

※自主運行バスとコーちゃんバスの平成28年度の年間利用者数は4月～8月の利用状況より推計

資料：湖西市